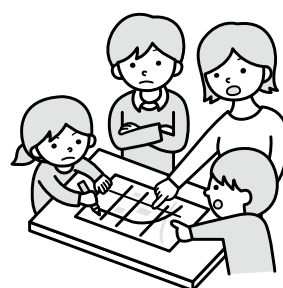


災害に備え、自分だけの避難計画を作りましょう!

大雨、土砂災害、地震、津波などあらゆる災害に対してどう避難するのかをあらかじめ決めておくことで、より安全かつ円滑な避難行動ができるようになります。皆さまのご自宅や職場の周りで起こりうる災害について知り、ご家族で避難について話し合いましょう。

- ① ハザードマップを確認し、浸水害や土砂災害の危険の有無、指定避難所などを把握する。
- ② 避難に必要な気象情報等の調べ方や、防災メール等による情報の受け取り方を決める。
- ③ いつ、どうやって避難するか、家族で相談する。仕事中などで家族と離れている時の安否確認の方法を決めておく。



調べる内容の目安として、国土交通省のホームページでは、洪水時の避難についてあらかじめ決めておく「**マイ・タイムライン**」や、小中学生向けの「**逃げキッド**」の検討ガイドを公開しています。

[マイ・タイムライン](#) [検索](#)

～ ご近所の助け合いにご協力をお願いします ～

災害時には、まず自分自身や家族の安全を確保することが重要です。

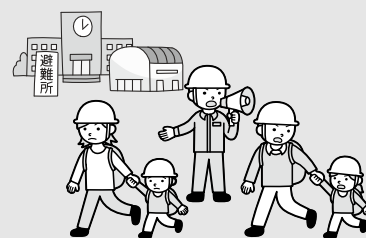
しかし、皆さまのお住まいの地域には、高齢で介助が必要な方や障がいのある方など、自分ひとりでは安全の確保が難しい方（避難行動要支援者）もおられるかもしれません。逃げ遅れによる犠牲を減らすため、災害時には皆さま自身の早めの安全確保と、避難の声かけや避難場所への移動支援など、可能な範囲でのご近所の助け合いにご協力をお願いします。

また、出雲市では、災害対策基本法に基づき、地区災害対策本部を中心とした地域の方や、ケアマネジャー、相談支援専門員の方に協力いただきながら、避難行動要支援者の避難先や避難時の支援者（サポーター）をあらかじめ決めておく「**避難プラン（個別避難計画）**」の作成を進めています。地域住民の皆さまへ、災害時の声かけや移動支援について相談させていただくこともありますので、取組にご協力をお願いします。

詳しくは、市のホームページをご確認ください。



▲詳しくはこちら



斐伊川放水路分流時の周知方法

大雨で斐伊川が増水し、斐伊川本川の流量が毎秒400m³を超えると、斐伊川放水路への自然越流が始まります。その後、同じく毎秒500m³を超えると斐伊川放水路分流堰のゲートを倒す操作を行います。ゲート操作を行う場合は、次のように周知します。

ゲート操作 約1時間前

国土交通省出雲河川事務所から、県庁、市役所、出雲警察署、出雲消防署へ分流通知があります。また、河川内に人がいないか警報車で下流の巡視を行います。

ゲート操作 約30分前

斐伊川放水路、神戸川沿いに29か所設置している放流警報局で、河川内にいる人を対象に次の周知を行います。

- スピーカー……30秒鳴らす→6秒休止→15秒鳴らす→10秒休止→(繰り返し)
- 回転灯……周知開始から分流終了まで回転

分流堰の操作で川の水かさが増える恐れがあるため川には近づかないでください。

ゲート操作時

また、出雲河川事務所のホームページでも周知を行います。
<https://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>



おたずね

国土交通省 出雲河川事務所 TEL 21-1850
 市役所本庁 建設企画課 TEL 21-6561



放流警報局 (大津町上米原地内)

斐伊川放水路事業記念館

「斐伊川放水路事業」を中心に、島根県百年の大計ともいわれる大事業「斐伊川・神戸川治水事業」の内容や経過、埋蔵文化財発掘調査で発見された昔の人の暮らしや文化財などについて展示しています。その他にも、土器パズルやラジコン式の土木機械等も設置しており、子どもから大人まで楽しみながら「治水・土木」のことを学べる施設になっています。皆さんのご来館をお待ちしています。

記念館 外観



館内の様子



※学校等各種団体でご利用を希望される場合は、ご都合に合わせて対応しますのでご相談ください。

ご利用案内

場 所 / 上塩冶町964-1 (斐伊川放水路と神戸川の合流地点)
 開館時間 / 10:00~16:00
 休 館 日 / 毎週火曜日、水曜日、年末年始
 入 館 料 / 無料
 おたずね / 建設企画課 TEL 21-6561

健康コーナー

ダニによる日本紅斑熱やツツガムシ病が発生しやすい時期になりました ~ダニに咬まれないよう注意しましょう~

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。キャンプ、農作業など屋外で活動する機会が多くなりますので、ご注意ください。

ダニによる主な症状 発熱、頭痛、関節痛、発疹など

ダニに咬まれないためのポイント

- 長袖、長ズボン、手袋などを着用し、肌の露出を少なくする。
- 明るい色の服を着る。(マダニを目視で確認しやすくするため)
- 草むらなどに直接座らない。 ○虫除け剤を使用する。
- ガムテープを使って服についたダニを取り除く。
- 屋外活動後は、シャワーや入浴でダニがついていないかチェックする。



ダニに咬まれたときは、無理に取ろうとすると化膿する場合があります。皮膚科などの医療機関で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。

おたずね / 健康増進課(6・7番窓口) TEL 21-6829